

農作物の生育概況等について

1 気象経過

今冬は最大積雪深が多かったものの、1月下旬から3月の気温が平年よりも高く推移したことから、融雪時期は平年よりも早かった。3月以降も、平年より気温の高い状態が続いている。

2 主な農作物の生育状況

(1) 水 稲

- ・ 播種作業の始期は、平年並みの4月14日頃と見込まれ、盛期も平年並みの4月20日頃と見込まれる。

(2) 果 樹

- ・ 露地さくらんぼの「佐藤錦」の生育は平年より7日前後早く、今後の気温も平年より高い予報であることから、村山地域の平坦部の満開期は平年より10日程度早く、4月16日～21日頃になると見込まれる。
- ・ ハウスさくらんぼは、「紅さやか」が2月17日から、「佐藤錦」が3月3日から出荷が始まった。品質は概ね良好で、価格は前年よりやや高くなっている。

(3) 野 菜

- ・ きゅうり半促成栽培の収穫は、前年より3日早い3月21日から始まり、順調な出荷となっており、品質も良好である。
- ・ すいかは、現在育苗中で、生育は良好である。
- ・ ハウスメロンの定植は、前年並みの3月23日頃から始まり、生育は良好である。

(4) 花 き

- ・ さくら「啓翁桜」の出荷は4月10日までにほぼ終了した。次作の高品質生産に向け、施肥や病害防除の作業が行われている。
- ・ 周年栽培のばらやアルストロメリアは、3月中旬から出荷本数が増加している。

3 農作業安全、新型コロナウイルス感染症対策

〈農作業安全〉春の農繁期を迎え、機械作業・高所作業が増えることから、農作業事故防止のための基本的な対策を再度確認し、徹底する。

〈感染症対策〉体調チェックや3密（密閉、密集、密接）防止など、新型コロナウイルス感染対策を徹底する。

4 当面の主な技術対策

〈水 稲〉移植計画に合わせた種子浸漬、催芽、播種を行い、適正な温度管理、水管理で健苗を育成する。

〈果 樹〉さくらんぼの継続した凍霜害対策の実施、結実確保対策の徹底、さくらんぼ・ぶどうハウス栽培の生育に応じた温度管理の徹底

〈野 菜〉ハウス・露地トンネル果菜類（すいか、メロン等）のきめ細かな温度管理の徹底

〈花 き〉ばら、アルストロメリア等施設花きの高品質生産に向けた、温度管理の徹底

～ 「人」と「農業」を新型コロナウイルスから守るために ～

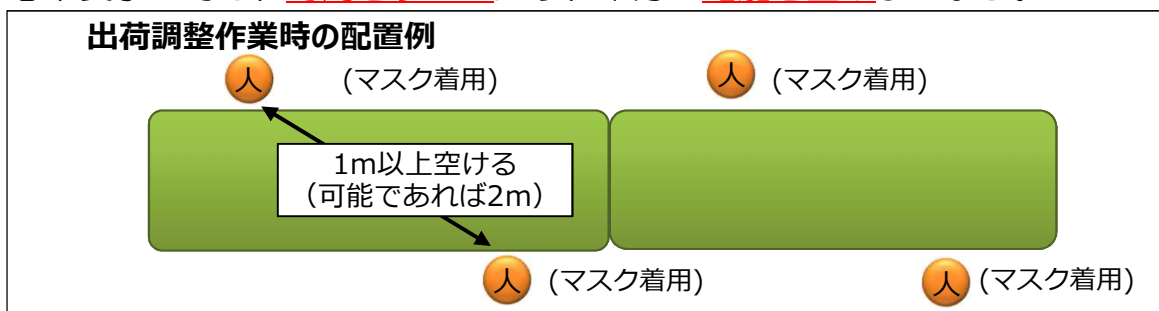
農作業が本格化しています。
農家や従業員の皆さんが新型コロナウイルスに感染しないよう対策を徹底しながら
農作業事故に十分注意して作業を行いましょ。

対策1 作業する人全員の体調をチェックしましょう

- ◆ 朝（作業前）と夕（作業後）に体温を測定し、記録しておきましょう。
- ◆ 発熱などの症状がある場合は、自宅で待機してください。
- ◆ 発熱や強いだるさ、息苦しさなどがある場合は、「受診相談コールセンター」（電話：0120-88-0006）の指示に従ってください。

対策2 3密（密閉、密集、密接）にならないように工夫しましょう

- ◆ 屋外作業で2m以上の十分な距離が確保できる場合は、熱中症のリスクを考慮し、マスクをはずすようにしましょう。
- ◆ 屋内作業では、こまめな水分補給を心掛け、以下の点に留意して、できる限りマスクを着用しましょう。
- ◆ 出荷調整などの室内作業は、
 - ① 窓を開けて行うか、定期的に換気を行いましょ。
 - ② 隣の人と距離をとらましょ（下図）。
 - ③ 会話等は必要最小限にしましょ。
- ◆ 出荷調整施設（小屋）等に入出入りする時は「手洗い」や「手指の消毒」を行いましょ。
- ◆ ドアノブや手すり等の人がよく触れるところは、除菌や拭き取りを行いましょ。
- ◆ 休憩や食事の時も、時間をずらしたり、十分に距離を空けましょ。



もしも、家族や従業員が感染した場合は

- ◆ 家族や従業員等への感染が確認された場合には、保健所に連絡し、対応について指導を受けてください。
- ◆ 感染者の濃厚接触者と特定された人は、行政検査（PCR検査）を受検します。この検査が陰性でも、14日間自宅待機します。その間に、発熱又は呼吸器症状を呈した場合は、保健所に連絡してください。
- ◆ 保健所の指示に従って、感染者が作業に従事した区域の消毒を実施します。
- ◆ 緊急を要し、自ら施設の消毒を行う場合には、感染者が作業に従事した区域のうち、頻繁に手指が触れる箇所を中心に、消毒液で拭き取り等を実施してください。
- ◆ 一般的な衛生管理が実施されていれば、感染者が発生した施設等は出荷停止や農産物廃棄などの対応をとる必要はありません。

4月10～11日の凍霜害によるさくらんぼへの被害について

- 4月10～11日に凍霜害が発生し、県内全域でさくらんぼの雌しべの枯死被害がみられています。主産地（村山、東南置賜）の品種別の枯死被害率は、「佐藤錦」が22.2～64.4%、「紅秀峰」が25.9～92.9%と両品種とも高くなっています。
- 開花前の凍霜害を受けやすい時期であり、引き続き、チラシ配布や広報車巡回等の凍霜害防止の徹底を図るとともに、間もなく開花期を迎えることから、結実確保に向けた人工受粉の徹底を図ってまいります。

1 4月10～11日のアメダス地点の最低気温（0℃以下の時間）の状況

調査地点	最低気温	0℃以下の時間	調査地点	最低気温	0℃以下の時間
山形	-1.0	3時間	新庄	-3.0	8時間
左沢	-3.6	9時間	高畠	-3.3	7時間
東根	-3.5	7時間	長井	-2.7	7時間
村山	-3.6	7時間	鶴岡	-2.1	3時間

2 凍霜害による枯死被害

さくらんぼの凍霜害の発生状況（雌しべ枯死率%）

所管普及課 (地点数)	佐藤錦		紅秀峰	
	最小	最大	最小	最大
東南村山 (3)	36.6	46.3	42.2	80.1
西村山 (3)	24.0	64.4	65.2	77.4
北村山 (4)	26.8	59.7	32.9	81.5
最上 (1)	36.4		88.5	
東南置賜 (2)	22.2	55.3	25.9	92.9
西置賜 (2)	66.7	81.6	80.0	95.0
庄内 (2)	2.1	7.3	0.0	1.2

※凍霜害は県内全域でみられ、品種別では生育が進んでいる「紅秀峰」の枯死率が高くなっている。
※温度の低下が大きく（-4℃以下）、氷点下遭遇時間が長かった（7.5時間以上）地点ほど、雌しべの枯死率が高い傾向がある。

3 今後の対応

- （1）詳細な調査の実施
 - ・JA等連携して調査地域や地点を拡大して実施。
 - ・JA山形中央会、JA全農山形と連携して現地調査を実施（検討）。
- （2）凍霜害防止及び結実確保の徹底
 - ・JA等と連携して、チラシ配布や広報車による巡回等を行い、凍霜害防止対策及び結実確保対策を徹底。
 - ・4月14日に「さくらんぼ結実確保対策キャラバン出発式」を実施。

以上

さくらんぼの開花数と結実数

1か所に「花芽」が6～9個程度つきます。



1つの「花芽」には、2～4個の「花」が入っています。



1か所に「花」が20～25個程度咲き、このうち平均2個結実すると豊作です。

